うえだ

社団法人 上田高等学校同窓会関東支部会報

6月5日（火曜日）
1979（昭和54年）
季刊

第21号
——発行所——
上田高等学校同窓会関東支部事務局
発行人　矢島五郎
編集委員長　清水幾男
編集長　村田寛
埼玉県川口市並木2—11—20
矢島鋳工㈱内
電話　0482—53—2662（代表）
題字は故稲垣征夫氏筆

原稿をお寄せ下さい

一、テーマは自由です。同窓会のこと、近況報告、呼びかけなんでも結構です。
一、枚数　四百字詰原稿用紙三枚以内。
一、締切日　昭和五四年九月三十日
一、送先　〒332　川口市並木二の十一の二十　矢島鋳工㈱内　上田高校同窓会　関東支部事務局　宛

関東支部大会、6月28日に

第18回・農林年金会館（虎の門）で
さあ、行ってみよう
上田と青春を偲ぶ夕に

今年で第十八回目を迎えた関東支部大会は、きたる六月二十八日、午後六時より東京虎ノ門の東京農林年金会館で開かれる。久しく会わなかった旧友知己に思いがけなく出会う喜びに加え、今回は、新しくバンケットガールの接待のもと、豪華な賞品のあたる福引きなどもあって、趣向は盛り沢山。また、今春の新卒者の歓迎会を兼ねる大会であることから、在郷有志も大挙して参加するなど、大会気運はいやが上にも盛り上っている。なんとなくパッとしない昨今の世相、一つ気分直しに出かけてみてはいかがだろう。

大会は、矢島支部長を総括責任者と仰いで、花岡、神野副支部長に御指導賜わると共に、柳沢、星野、小木曽、村田の正副幹事長及び牧内会計幹事さん方の経験豊かな、しかも溢れる行動力で、運営の妙を発揮して戴く訳でありまして、その成果の程は期して俟つべきものがあると存じます。

加えまして今大会には、私の同期の四〇会が郷里在京併せて三十名が受付係その他を分担して下さる予定でありまして、さぞかし大会を盛り上げて下さるものと、その友情に心から感謝している次第であります。

さて、本大会は一にかかって主役である会員の皆様方の御協力によりますことは論を俟ちません。

私達の心の故里である上田高校同窓会の明日への飛躍の第一歩として、皆様方の絶大な暖い御支援を賜わりまして、この大会が盛会裡に終りますよう、心から御願申し上げる次第であります。

大会委員長　あいさつ

小林郷司（副支部長・40期）

職業柄、信濃路を訪ねる機会が多く、その四季を心ゆくばかり鑑賞して居りますが、自然に恵まれた故里に、我が青春の軌跡を残した幸せを、つくづく感ずる昨今です。

〝トンネルに　萠見ゆ
青葉の確水かな〟

上田高校同窓会の皆々様、御元気でいらっしゃいますか、御伺い申し上げます。

関東支部の大会も本年は第十八回を迎えることになりましたが、この準備委員長に不肖小林が御指名戴いてしまいました。伝統と栄与に輝く上田高校関東支部における大会は、会報「うえだ」の発行に優るとも劣らぬ一年一度の最大の行事でありまして、改めてその責任の重大さに心の引き緊まる思いが致しております。

大会準備委員会が毎回交代することの意義を考えまして、私はこの大会に次のことを実行すべく計画いたしました。

一、従来の型に捕われない斬新な運営を行ない、参加者の皆さんが楽しい落着いた雰囲気の中で青春の軌跡を再現出来るよう努力すること。
一、在郷の皆さんにも多数御参加いただいて、本部と支部の距離を縮めること。
一、母校の御協力の下に、新卒者を招待して、関東支部の存在価値を認識して貰うこと。

大会委員

委員長	小林郷司	(40)
委員（在郷・40期）	池田治夫	
	一石正志	
	尾島守	
	小山吉	
	清水美子	
	土藤恭平	
	米沢吉次	
	富男	
	森敏	
（在京・40期）	市川寛	
	石木林	
	上野重	
	荻原豊	
	小林治	
	小林政博	
	砂田雄	
	長谷川辰人	
	丸山和一	
	森山英司	
	柳沢博夫	
	矢島晴一	
	吉田信生	
	節	
来賓接待	相談役・正副支部長	
会計	牧内操	(47)
	林市嘉	(58)
	赤池男三	(58)
司会進行	柳沢廣	(44)
	星野賢造	(44)
	小木曽誠	(48)
	村田寛	(51)

大会次第

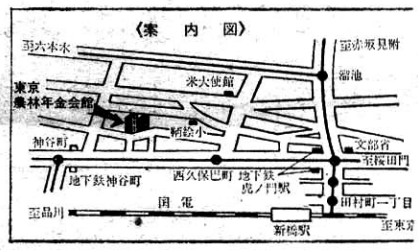
一、開会の辞　総合司会・幹事長（44）柳沢広
二、校歌斉唱　司会・副幹事長（44）星野賢造
三、挨拶　〃・〃（48）小木曽進
四、議事　〃・〃（51）村田寛
　会務報告　大会委員長・副支部長（40）小林郷司
　会計報告　支部長（31）矢島五郎
　監査報告　幹事長（44）柳沢広
　　会計幹事（47）牧内操
　　監事（30）原相模
五、新卒者歓迎
六、在郷有志参加者紹介
七、福引
八、応援歌、凱歌斉唱
九、万歳三唱
十、閉会のことば

懇親パーティー

一、来賓紹介　副支部長（35）花岡儁
二、スピーチ　副支部長（36）神野勝男
三、乾杯

社団法人 上田高等学校同窓会　関東支部第十八回大会

一、日時　六月二十八日（木）午後五時受付開始　六時開会・九時閉会
一、会場　東京農林年金会館　港区虎ノ門四ノ一ノ一　電話（432）七二六一（大代表）
一、会費　三千五百円也
一、道順　◎地下鉄日比谷線＝神谷町下車三分
　◎地下鉄銀座線＝虎ノ門下車七分
　◎国電＝新橋下車十三分



本部同窓会も開かる

六月三日、上田で

同窓会本部の五十四年度総会は去る六月三日（日）午後一時から同窓会々館に於て会員多数出席の下に開催された。

「リンゴで育った信州牛」田中豊雄氏（36期）の映画の後、午後一時半より「エネルギー問題と原子力」について、日本原子力研究所長・吉田節生氏（40期）の講演。

続いて議事に入った。

議事は昭和五十三年度事業報告及び決算承認の件、昭和五十四年度事業計画並びに予算承認の件、昭和五十三年度同窓会奨学会決算承認の件、学校創立八十周年記念事業期成同盟会について、等々。

総会終了後懇親会並びに受章者の祝賀会が行なわれた。

受章者氏名

（敬称略）

勲三等旭日綬章　小木曽恩（18期）
勲五等瑞宝章　小泉栄次郎（19期）
勲五等双光旭日章　遠藤恭介（20期）
勲五等瑞宝章　池田英雄（21期）
勲三等旭中綬章　橋詰英雄（21期）
勲四等旭日小綬章　小林口根夫（23期）
勲四等瑞宝章　宮沢完三郎（23期）
勲三等旭日中綬章　大田道雄（24期）
勲四等旭日小綬章　笠原正己（24期）
勲三等旭日中綬章　清水進（24期）
勲三等旭日中綬章　田中亮（25期）
勲四等旭日小綬章　三井忠直（25期）
勲四等旭日小綬章　宮下巌（29期）

おしらせ

本号に会費納入用振替用紙を同封してありますが、未納の方は至急お送り下さい。なお既納の方は八頁に氏名を記してありますので御確認下さい。

郷土の味を贈りましょう

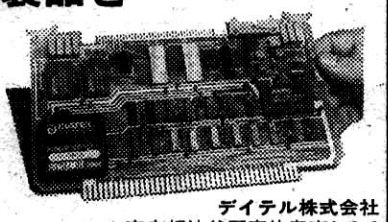
山吹味噌

信州味噌株式会社

本社　東京都新宿区下落合3—17—38

世界でも有数の
米国デイテルシステム社の製品を
お届けいたします。

アナログI/Oボード
（モトローラ6800用）



—営業品目—
米国デイテルシステム社製
A/D、D/Aコンバータ
OPアンプ、サンプルホールド
アナログマルチプレクサ、VFVコンバータ
アクティブフイルタ
電源モジュール、DC-DCコンバータ
デジタルパネルメータ、パネルプリンタ
データアクイジションシステム
アナログI/Oボード
データロガー

デイテル株式会社
東京都渋谷区恵比寿南2-8-2
(03)793—1031
大阪市北区天神橋2-北1-21
(06)354—2025
（代表取締役　武井淳・53期）

データ変換の、モジュールからシステムまで
DATEL SYSTEMS, INC.

面目一変は近い

＝上田高校事務長　市川　明＝

母校改築ここまで進む

昭和五十一～五十二年度にかけて、普通教室棟（二十四教室）および自転車置場、井水浄化施設、部室（十八室）が竣工したことは既に報告しましたが昭和五十三年度は、地盤調査の外に昭和五十四年度に着工される管理特別教室棟の内部配置と外部設計に、校内委員会の原案作成、この原案に基づいて県教委と施設課への交渉に相当の日時と努力を要しました。

この管理特別教室棟には、校長室、事務室、保健室、会議室図書室、休養室、放送室と教務室等の各研究室の管理部門と化学、物理、生物、地学、視聴覚書道、美術、被服、調理等の特別教室が配置され、工期は現地改築の為に生徒の動静、教室の転用などによりやむをえず昭和五十四年度にその五分の四を、残り五分の一は昭和五十五年の予定です。

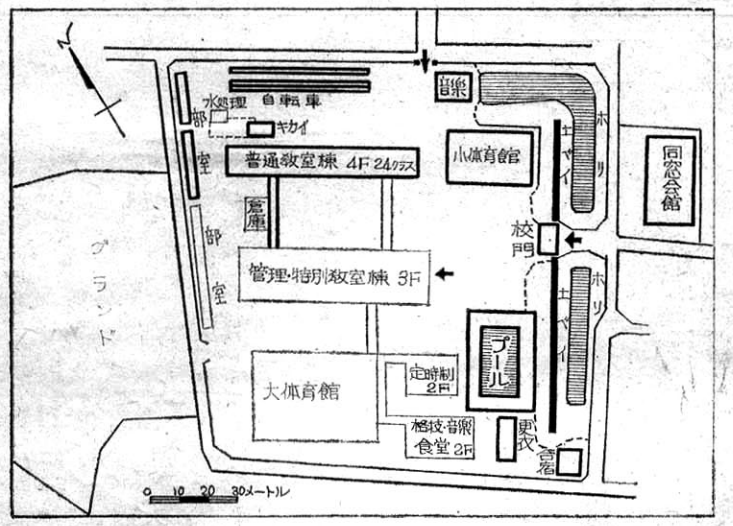
この工事のために講堂、本館、控室の半分、校用技師室、給食室等明治三十年代に建てられた古い建物が取りこわされますが明治以前に建築された土蔵は、校門脇に同窓会の御協力を得て移築の予定です。

また、その後の改築計画は、昭和五十五年度に前記管理特別教室棟の残りの外に、格技、音楽、食堂、給食室の混合棟を、昭和五十六年度に大体育館と定時制B棟の建築で竣工は昭和五十七年九月の予定で改築を進めております。

なお、上田市指定の文化財、校門、土塀、外堀の改修についても、上田市、県教委、同窓会、PTA等の御協力を得ながら後世の為に立派な文化財として保存するように努めたいと計画をしております。

図は二月の支部幹事会席上で母校柳沢先生より示された計画図をもとに作図した。細部は一部省略してある。配置は改築完了後を示す。つまり上半分（北側）は既存または改築ずみなので現状を反映しているが、下方の南半部はまだ旧校舎が残っており、これは図には出ていない。それらを取りこわした後、最終配置が図のようになるわけだ。古城の門と濠、土塀を残し面目は一新する。中央の管理特別教室棟の一隅、正門に近い部分が校舎玄関である。入るとホールで、その左に事務室、奥隣りが校長室となる。

◇…図の太線は既存または改築ずみの校舎・施設。細線は今後建築予定のもの。



変転の中の〝永遠〟

支部長 31・矢島五郎

◇回想の一片　卒業が昭和七年だからもう半世紀近い昔になる。世の中もずいぶん変わったが、母校の変遷も甚しい。

移り変わりの初体験は中学三年の時だった。それまで甲乙丙丁と分けられていたクラスの名がABCD組と一変し、黒い制服のつめえりに金色のローマ字記章がはじめてついた。ただそれだけとは今だから言える。当時は、その翌日から学校全体がガラッと新しくなったような強烈な印象であった。

四クラス制はその後もずっと続いた。一村で数人しか進学しないころである。一学年二百人の少年たちは、五年卒業までにそれぞれ生涯に続く友情を確立させることができたし、学年毎の上下の秩序もきびしく身につけさせられた。当時の五年生の君臨ぶりと恐しさは下級生にとって忘れ難い。

そういうものが戦後はすっかり変わった。学制自体が六・三・三制となり、旧制中学の卒業生たちを面食らわせた。最大のショックは昭和二十六年にはじまる女子の入学である。むかし、女性は〝危険物〟だった。同伴で公然と街を歩けた者は一人もない。たとえ相手が姉や妹であろうと、どこかで光っているに違いない上級生の目と、その後のコワい〝お説教〟を思えば、ひたすら慎しむか、深く静かに潜航するほかはない。それが今はどうだろう。教室内にも校庭にも、レッキとしたわれわれの後輩としての女性が楽しそうに学ぶ姿が見える。加えて男子生徒の色とりどりの自由な服装―あのカラス色の制服からの解放―もまた明るい変化の重要なひとつとして忘れられない。

おもなものだけを挙げた。ほかにも定員増、各運動部の消長など半世紀の変化は数え切れない。近くは校舎全体の根本的改築も進んでいる。

◇シンボルときずな　それでもなお一貫して昔から変らないものがある。ここでは二つ挙げよう。

一は、言うまでもなくあの校門であり、濠である。上田高校特有のシンボル『古城の門』の健在は誠に尊く、有難い。

二は『同窓』というきずなである。あの門をくぐって育ち、あの門を後にして巣立った者、老若あわせていま全国に一万七千余人という。むろんその後の運命は文字通り千差万別である。しかし、その生き方がどう変わっていようとも、母校のある限り、われら卒業生はひとしく〝同窓生〟のひと言に包含されるし、そこから脱け落ちることもできない。門には形がある。いつの日か、不幸にして亡びることもあろう。だが、無形のきずなは、これこそ永遠である。

このゆえに私は、同窓会の意義を深く思う。明治生まれの大先輩から、戦争を知らぬ世代の後輩まで、ひとたび思いを同窓のきずなによせ、卒業期の先後を超えて同窓会につどう時、親しさと、なつかしさ、そして断ち難い連帯感をおぼえぬ者はないだろう。

◇若きひとびと　関東支部員はいま住所判明者三千二百余人となっている。結成以来すでに二十年、毎年の大会のほか、会報『うえだ』も十年二十号を積み上げた。故郷を遠く離れてこのせわしない社会に生きる者にとって、同窓生との交わりは肉親とのそれに似て心安まるものであり、お互いの団結は頼母しく力強いものである。年齢、境遇に違いはあっても、根を洗えばみな同じ、ひとしく往時の上田中学、高校の庭で一期一会の青春を過した仲ではないか。老先輩の後をついで同窓会の集いを楽しく守り育てて行ってくれることを心から願ってやまない。

先輩から後輩へ―在校生から先輩へ

ひとつのお願い

二年五組　柳原　雅子

最近の上田高校は、私たち女生徒の数もふえ、服装にしても考え方にしても大きく変化してきました。質実剛健であったかつての上高生とはかなり違ってきているのです。が、世間の人の上高生に対する見方は変わっていません。

『上田高校の生徒です』―そのひとことで充分らしいのです。まじめで勉学にいそしみ、スポーツに打ち込んでetc…と。

こういうはっきりしたイメージは、やはり先輩方が長い歳月の間に築いてこられた伝統があればこそでしょう。しかし、遅れて学ぶ私たちにとっては、そういう〝一定の型〟に一種の疑問を覚えることがあります。伝統とはやはり重いらしく、時にはのしかかる重圧感の下で、逆にそれをはねのけ、解放され、固定された上高生の型を破りたいとねがうのです。

しかし、そうは思っても、それは所詮とりとめもない想念に止まります。古城の門を出入りする私たちは、表面はいくら変わっても上高生の根底を貫いて流れる一筋の生命はやはり変わっていないし、まだ変えたくない―それが本当のところなのです。

この夏、その古い伝統を象徴してきたような講堂、柔道場などがとりこわされます。入学以来ずっと『汚い、汚い、早く改築してほしい』そう思ってきた校舎でした。それがとりこわしを前にして、非常な愛着を感じている自分が不思議に思われます。

旧校舎―その薄暗い教室で、きずだらけの木の机に本を開げていると、遠い昔を思わずにはいられません。この同じ机にすわっていた無数の先輩たち―ここで何を思い、何に心を動かしていらしたのでしょうか。いまもその心が、暗い部屋の隅に止まっているのでしょうか。

先日、幾人かの初老の先輩がいらして、なつかしそうに一巡していかれました。どの柱にも壁にもすりへった石廊下にも、数えきれないほどの青春の思いが刻みつけられているはずです。そのことは若い私たちにも痛いほどわかります。それがとりこわされてしまったら、先輩方は過ぎし日の想い出をどこに見出だされるのでしょうか。訪れて下さる方も、やがて少なくなってしまうのではないでしょうか。

でも、そうはならないで下さい。新校舎の中に、旧校舎を知らない生徒ばかりが学ぶようになった時、そういう時こそ、なお一層母校にいらして下さい。そして、上高生の本来の姿が何であるかを力強く伝えてやってほしいのです。

それを切望してやみません。

伝統を継ぐ僕ら

二年二組　堤　宏

昨年四月、私も上田高等学校に入学致し、以来一年間、上田高校生としての誇りを胸に、勉学に運動に励んでまいりました。朝夕新鮮な気持ちで、学校の顔である校門をくぐるたびに「ああ、先輩も皆この門をくぐったのだなあ」と深く感銘し、古い校舎やグランドからは、歴史の重みを感じました。そして、皆さまの残された、学業やクラブ活動上の優秀な成績から、たゆまない努力と強い根性の大切さを学ぶことができました。この他にも、先輩の跡は校内至る処に残っています。

さらに、地域社会でのご活躍は私たちの励みとなり、明日への前進に大きな希望を与えてくれています。そんな先輩の皆さまに私たちは心から感謝し、その努力を見習って行きたいと思います。

学校創立以来、八十年もの間我々を見守って来てくれたのがあの古い校舎です。それは上田高校の伝統そのものであり、永遠に残っていて欲しいものの一つです。

が、このたび、その校舎が近代化によって改築されることとなり、七月にはその第三期工事の着工が予定されています。古いものをなくすことは寂しいことです。しかし、これは新たな発展を象徴することでもあります

今後、旧校舎は無くなるとも、皆さまの築かれた偉大な伝統は決して消えません。それは私たちの心に刻まれ、受け継がれ、さらに我が校の一大発展に役立つものと信じて居ります。

最後に、在校生を代表し、諸先輩の皆さま方のご健康と、益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

有限会社　アズマヤ
代表取締役　横谷　重時（47期）
〒386　長野県上田市中央3丁目8～17
電話　0268―22―1373

公認会計士 税理士　三浦　嘉治（47期）
事務所　新宿区納戸町32―3三央ビル
（電）267―2242（〒）162
自宅　世田谷区上祖師谷2―33―26
（電）309―4978（〒）157

野生の猿が群遊ぶ　奥湯河原温泉郷
旅荘　山和
春は桜、夏は涼しく、秋は紅葉、冬暖かく、四季それぞれに
家族で楽しめる
〒259―03
神奈川県湯河原町宮上784
TEL　0465―62―4701・8505
館主　古山　海平
顧問　33期　橋本　利政　（33会指定旅館）

趣味の宝飾
わこう
〒354　埼玉県富士見市鶴瀬西3―3
TEL　0492―51―4443（代表）
0492―51―2709
代表取締役　半田　光威（56期）
相談役　高末　武始（47期）

あなたを待つ集い

運動部OB会・郷土会・同好会・同業会

会報「うえだ」は支部の年次大会結集への連絡役としてばかりでなく、過去十年間にわたり一回の休刊もなく年二回の発行を守ってきた実績により、支部会員の各種会合の案内、報道、そして団結、さらには新しい会合・組織の誕生にも役割を果してきたことを自負している。先年、第十六号紙上でも一部ご紹介したが、同期生の会合とは別に、多彩な集まりがあることを再びお知らせしたい。

いずれも先輩、後輩一堂に会して得がたい親睦の実をあげているもので、資格を持ちながらまだ知らない諸君、また新たに参加希望の諸君のために、連絡先等の細目を加えた。記事は一部を除いて各団体から提供の資料により、編集委員が作成した。各会幹事にお礼申し上げる（支部長・矢島五郎）

東京柔和会

三十数年間母校に教鞭をとられ敬慕された依田誠先生を中心とした柔和会が戦前からあって、固いきずなで結ばれていたことはご承知のとおりと思う。去る四十九年これが上田中学、高校で柔の道を学んだすべての者の親睦をはかる目的で組織を拡大改組し、新しい柔和会が結成された。東京柔和会はその東京支部。現在会員は約百五十人。年一、二回のペースで心の通い合ったなごやかな会合を

【役員】▽会長坂田隆雄（26）▽幹事長小林郷司（40）▽副幹事長柳沢広（44）▽常任幹事井村薫（29）佐藤祐三（34）小市則夫（54）▽監事岡清助（37）

【連絡先】〒101千代田区神田鍛冶町三―三共同ビル、公認会計士小林郷司事務所▽電話252―8801～4

松尾球友会

昭和四十四年六月二十一日の設立。在京野球部OBを結集、その親睦をはかるとともに母校野球部を援助、激励することを旨とするもの。ただし、野球部OBに限らず、広く野球を愛し母校野球部の活躍に関心を持つ同窓生の加入を歓迎し、目下その門を一段とひろげて待っている。

【役員】▽会長馬場長市（25）▽副会長六川善一（29）▽顧問片岡武雄（16）勝俣拡（27）▽幹事中村礼三（32）伊藤東四次郎（36）竹内盛夫（52）柳沢孝宣（52）神津進（56）山崎維典（57）丸山清光（70）佐藤稔（70）▽監事清水信（32）

【連絡先】〒232横浜市中区日ノ出町二―二四、柳沢孝宣▽電話（045）231―8472および〒166杉並区成田西二―二二、中村礼三▽電話398―6045

松門会

ハンドボール部OB会の東京支部。設立は四十五年の同窓会総会の時だが、四十九年ごろまではチームを編成して東京都のクラブリーグ戦に参加していた。特に四十六年にはリーグで第二位、関東クラブ選手権には都の代表として出場、準優勝した。現在の会員は約七十人。毎年三月に総会。

【役員】▽会長牧内清（48）▽副会長山崎延秋（48）▽幹事長中沢重夫（49）▽幹事主杏藤森宣和（56）

【連絡先】〒171豊島区西池袋五―二―一三三、藤森建築事務所▽電話983―0581

関東陸文会

陸上競技部OBの親睦会として昭和三十八年に再建。在校の現役選手を励まし僅かなりとも経済的貢献をすることを旨とする。上田には上田陸文会があり、年一回は上田で関東・上田合同の会合をひらいている。会名は陸上の陸と真田六文銭の文による。

【役員】▽会長矢島五郎（31）▽副会長瀧沢正（35）神野勝男（36）▽幹事長橋本利政（33）▽幹事須田武久（53）石沢健司（64）山崎一郎（64）

【連絡先】〒160新宿区北新宿二―二一―一八、橋本利政▽電話291―8851

サッカー東京OB会

昭和四十七年再々結成。現在会員七〇人。現役の成績は七十五試合六十三勝九敗三引分。北信越大会優勝。全国大会では一回戦で岡山県を3―1で降し、二回戦は福岡県に2―4で惜敗。

【役員】▽会長加藤三郎（31）▽副会長十屋二三男（33）柳沢年（34）▽常任幹事飯塚英司（38）深町勝男（54）小沢光男（57）▽名誉会員矢島五郎（31）▽ほかに卒業期別幹事あり

【連絡先】深町勝男▽電話502―6201

在京啓明会

啓明会は長い歴史を持つ上中の学外団体で、丸子町を中心とし、近隣の村から丸子電鉄で通学する生徒で組織されていた。当会はその在京OB会。戦後かなり早い時期に品川ホテルで数回有志が会合していたが、その後正式に発足した。特徴は上中OBだけでなく、依田窪一帯の上田高女、染谷ケ丘高校の女性も合流している点で、毎年一、二回〝男女共学〟の楽しい一夕をすごす。会員二〇〇人。

【役員】▽会長十屋学（31）▽副会長野間朋子（染谷28）▽幹事長小林郷司（40）▽幹事浅野敏正（42）三浦嘉治（47）伊沢多喜男（54）小山信子（染谷45）神津紀子（染谷高2）赤羽豊子（同3）早川信子（同3）

【連絡先】〒101千代田区神田鍛冶町三―三共同ビル、公認会計士小林郷司事務所▽電話252―8801～4

やまざる会

昭和三十三年、旧傍陽村上浅馬出身の同窓生が上野の「一平」で集ったのがはじまり。その後楽しい一夕を求める輪は真田町、殿城豊殿の出身者へとひろがり、現在では昔の「東北会」に近い。矢島支部長も菅平に山荘を持つことから会員の一人。会合は不定期だが昨年十二月十五日夜、上野・池の端「一平」での集いは盛会を極めた。会名は自嘲ではない。山紫水明の故郷を恋うる気持から。

【役員】会長、幹事などは特にない。▽世話役堀内茂雄（44）

【連絡先】〒130墨田区菊平四―九―三、堀内税務会計事務所▽電話625―2291

東京平旦会

平旦会は昭和はじめの発足。軽井沢から平原まで、つまり軽井沢町、西長倉村、伍賀村、小沼村、御代田村、南大井村、北大井村から信越線を利用する〝汽車通〟生徒の親睦機関で、本会はその在京者版。五十一年に尾合三吉（30）深井安児夫（36）両氏らの発起で発足した。例会は毎年十一月。年を追って盛会で、昨年は二十四日にホテル国際観光に十数人を集めてひらかれた。

【役員】▽会長尾合三吉（30）▽幹事長深井安児夫（36）▽幹事柳沢広（44）遠山益男（49）

【連絡先】〒153目黒区大橋二―四―一七、柳沢広▽電話467―0451

東京上中会

昭和三十三年二月、第二十一回と二十二回卒の有志約二十人が集って有楽町東京会館で楽しい一夕を過したことにはじまる。以後毎月一回の親睦会を重ねてすでに二十年、この間会員の範囲もやや広がり、現在は二十六期までの二十八人、平均年齢七十歳を越えているが、全員元気で毎年秋には伊豆、箱根方面への一泊旅行も試みている。

【連絡先】〒222横浜市港北区篠原台町三八―四四、常任幹事柳沢正春（22）▽電話（045）421―8855

わんだれ王陀礼会

関東支部幹事有志が、幹事会のあと二次会で楽しくやっているうちに、自然メンバーが固まり、昭和四十五年九月に結成。発起人は花岡僖（35）神野勝男（36）小林郷司（40）ら。年数回の幹事会に顔を合わせるだけでは物足りぬというところから、毎月第一水曜日に本会事務局の矢島鋳工㈱で会合をひらき、すでに百回を重ねた。

【責任者】矢島五郎（31）

【連絡先】〒332川口市並木二―一―二〇矢島鋳工株式会社内わんだれ会▽電話（0483）53―2662

うえだ経済問題懇談会

四十七期小木曽誠氏の発案で発足、昭和四十六年八月第一回例会を開いてからすでに十回を重ねる。「会員相互の懇親と経済情報の交換」を目的とし、ウイークデーの夜、食事を共にしたあと、各界から招いたゲストのスピーチを聞いて質疑、討論を行う。一応会員制（現在八十五人）はとっているが、皆さんの気軽な参加を歓迎している。会費はその都度で、一回三千円から四千円程度。

【役員】▽代表者牧内操（47）▽幹事村田寛（51）柳沢健、清水卓、小木曽誠、堀内惇（以上いずれも48）

【連絡先】〒112文京区小石川二―二一―二二、明光通商（株）気付堀内淳▽電話815―5211

松尾税友会

昭和四十六年十月十九日、当時大阪国税局長丸山英人氏（36）を初代会長として設立。会員の資格は同窓生の中で税務に関係ある職場にある者、たとえば税務署員、税理士、公認会計士等を現につとめ、またはかつてつとめたことのある者としている。現在の会員は一〇八人。毎年一回、東京と上田で隔年に総会を開いている。年会費五〇〇円。

【役員】▽会長丸山英人（36）▽幹事長松下高吉（36）▽名誉顧問矢島五郎（31）

【連絡先】〒100千代田区霞ケ関三―一―一、国税庁長官官房総務課赤池三男（58）▽電話581―4161、内線3609

ろくしょう鹿松会

昭和五十一年初頭、鹿島建設に勤務する同窓生が十六人と意外に多いことを知ったのが発端。エビスの「みづほ」で初会合をひらいた。同窓、同職場のメンバーによる楽しい集い。

【役員】▽代表者城田暨（35）▽幹事塚田高明（64）

松尾法友会

昭和五十三年六月二日、新橋亭本店で開いた初会合で会の結成を得た。法曹界に身を置く同窓生のための親睦会を目している。

【役員】会長以下の呼称、氏名とも未定▽幹事石川秀敏（24）市川渡（44）岩井重一（62）

【連絡先】〒107港区新橋二―一―一中央建物ビル、岩井重一法律事務所（6月6日移転、電話未定）

上中片倉会

今年一月発足早々の職場会。以下メンバー大田達郎君（46）の初会合レポート。

◇一月十日、名簿によって弊社内に呼びかけ、勝手に「上中片倉会」と名付けて池袋八峰閣で同窓会を催したところ、二十六期の大先輩から五十五期のヤングまで九人が参加してくれた。

◇「へえ、あの人が先輩か」「彼が上中か」というわけで、たちまち会話がはずみ、石井先輩がわざわざ持参された自作アルバム「古城の門」で校舎の今昔に感激ひとしお。校歌、凱歌に力がこもった。

◇八峰閣の郷土食、ハチの子や鯉でくもうまかったが、アルコールもはずみ、予算は簡単にオーバー。これは柳沢先輩が気を使って下さり、次回を約して散会した。

【連絡先】〒107港区元赤坂一―六―四、鹿島建設（株）環境開発部内、塚田高明▽電話404―5361

支部大会に若い血を

今春新卒の同窓生に檄す

「若手同窓生の関東支部へ参加意欲の高揚を図ろう」とする幹事会の大きなテーマを実現するべく、本年度の卒業生へ呼びかけのため第十八回関東支部大会準備委員長を引き受けられた小林郷司副支部長（40期）の随行で母校上田高校を訪問したのが本年三月三日であった。

春とはいえ信濃路はまだ寒さの厳しい日であったが、新津真澄校長先生をはじめ、柳沢宏（44期）同窓会係先生、市川明事務長先生らからあたたかいご勧待を受けた。

小林大会準備委員長の情熱溢れる参加呼びかけに、母校では全面協力を申し出られ、後日、同委員長より届けられた矢島支部長、小林大会準備委員長連名の檄文をさっそく印刷のうえ、今年度七十七回卒業生へ配り、大きく掲示するなどして、関東文部への参加を大々的に勧誘してくださった。誠に有難く力強い限りであったが、その檄文はつぎの通りである。

「新卒者の皆さんへ」

卒業おめでとう。皆さんを私たちの第十八回関東支部大会にご招待します。友だちをお誘い合わせの上、ぜひご出席下さい。

一、ときー昭和五十四年六月二十八日（木）六時

一、場所　東京農林年金会館＝港区虎ノ門四―一

一、会費　無料

昭和五十四年三月九日

この大会は笈を負って上京した新卒の皆さんの歓迎会をも兼ねている。馴れぬ大都市で勉学に職場にいそしむことになった諸君！　在京の先輩諸兄姉と語り、いったんは別れた同期生と歌い、楽しい夕べの一時を過ごそうではないか。（幹事長・柳沢広）

隠し芸も盛り沢山に

◇……心とけあう新年幹事会

◇…本支部の幹事会兼新年会は去る二月八日、東京池袋の八峰閣で開かれた。立春とはいえ、例年にない寒い日であったが、矢島支部長、花岡、神野、小林（郷）副支部長ら母校愛に燃える〝同志〟が七十余名出席。

◇…幹事会はまず、花岡副支部長の開会の辞のあと、矢島支部長がこの日も次元の高い、かつ名調子であいさつ。①同窓会館的次建物の建設構想を検討したらどうか②若手同窓生の同窓会本支部への参加意欲の高揚をもっと図ろうではないかーと強く訴えられた。つづいて母校で同窓会を担当の柳沢宏生（44期）から祝辞ならびに母校の全面改築計画の概要について説明があった。

◇…次いで五十三年十一月以降の会務報告を幹事長から報告。このあと協議にうつり、第十八回本支部大会の日取り、大会役員を決定、神野副支部長の閉会の辞で第一部幹事会を終了した。

◇…ひきつづいて第二部新年会に移り相談役を代表し大森大先輩の高らかな発声で乾杯。春日敦美さん（46期）の正調「伊那節」をトップに、小林副支部長の年期のはいった「望月小唄」、矢島支部長、小山一平先輩らのペーソスあふれる、なつかしのメロディー、それに手品（？）さらに保科巌さん（33期）のユーモラスな踊り、ご存じ神野副支部長の箒の迷演技とつづき、この夜の「宴」は大先輩とお嬢さん同窓生による「首相撲」なるゲームまで、寒い夜を吹っとばすような熱演（？）が次々と披露され、八峰閣のサービス嬢もこれにみとれて、しばしお酒を運ぶのも忘れる始末。

◇…会は恒例のとおり校歌、凱歌の大合唱をもって閉会したが出席者七十余名の〝心と心〟が一つに一涙ぐむ人もあるほど。次の再会を約して散会した。

すばらしきかな、同窓会!!

終わりに、毎度お手伝いをいただく女性幹事（まだ大学生のお嬢さん）方にこの紙面をかりてお礼を申し上げるとともに、彼女らの同窓会への熱意と誠意を会員各位にお伝いしたいと思う。

【幹事長・44・柳沢広】

弁護士　北澤和範（47期）
事務所　東京都台東区上野5丁目23番6号
電話　03―833―0921
自宅　埼玉県大宮市奈良町79番地49
電話　0486―66―5811

税理士　関本秀治（47期）
事務所　東京都葛飾区金町2丁目27番15号
電話　東京03（609）3151番
自宅　東京都葛飾区金町2丁目15番2号
電話　東京03（600）0367番

奥湯河原の山和で
在京三三会の定例大会

足柄29号新宿発一時三十分。こせ場所変ったので心配していたよと声をかけてくれたのは飯塚勇男君。ガラはきいれの親切もの。デパートエスカレーター七一階上り左に回る。特急券発売口前で八時半。誰も来ていないだろ。下に降りて西口に出てみた。

「やっぱりいたな　待ち合」が揃ったようだ。

山和で和やかに語りあった33会のメンバー

発車30分前にソワソワとホームに出る。何とか見かけるまで出ないまに。いらっしゃいませ。と言葉をかけてくれたのは飯29号になった。乗ってみると、記憶通りの車両あり、ガラガラの車内の妙な列車だ。広い〝猶一に保科厳幹事が入選楽ている。彼は諸厳居だが面白い踊も見せる器用人。電車は熱田で小田急一路小田原まで直行。

湯川駅に前出車でいつぱい。にぎやかだ。でもがっかり、どこかに海が見えたはずだが、それはもう見えない。目指す旅館は『山和』だが、ヤマワケのかヤマカスなのか判らない。試みに「サンワ」と怒鳴ると、タクシーの運転手は「ヘイ」。丸顔、陽焼、20歳あまり。こわいオアニーさんの風体だったが、案外気のいい奴で行先は大観山迄へ、野生のサルもいますとか、駅前に淡りましたが湯川屋には情緒がありますよな。

参加者の氏名

朝日仁二、荒井和夫、飯塚勇男、石井正夫、川崎雪久治、佐藤次男、白井康之、進塚三夫、鈴木真二、竹内実、土屋三男、中曽根五郎、中沢亮夫、橋本利政、弘世弘信、比留間金蔵、保科厳

良き哉——故里
丸子を偲び在京啓明会

仕事の都合で私は月に二、三回心から憂される気が喜楽の端々は信州へ行く。過日も車窓から信里の良さを楽しむことが出来た。

上田中学では、終戦まで、通学区域毎に校外団体が作られており丸子からこの依田窪地方には、啓明会という会があった。

この丸子を中心とした啓明会の東京版が、五七三年六月二日（土）午後六時から『さくら茶町店』で盛大に開かれた。

「お客のお見さんなその後如何されていますか、昔はとてもハンサムで……」等と和やかな雰囲が弾む中に、土屋学会長の挨拶が始まった。いつもながら、この会を補する様、染谷の名司会役小山福子、星川信子の他、丸子からの出席者、——「あ、○○ちゃんの弟さんですか」等と舞台は私達を育んでくれた故郷や内村なる、田舎へ移された想い出。

自己紹介に入ると、同郷の有難さ、——「あ、○○ちゃんの弟さんですか」等と舞台は私達を育んでくれた故郷や内村なる、田舎へ移された想い出。

「思い出」と題して、あの山」と題して、合唱する歌声。

同会進行は名幹事の浅野敏正君が、同校校歌の交換、寮歌、応援歌と熱気は場内に満ちて、楽しい時間は容赦なく過ぎたが、最後は野間明子副会長の閉会の辞でなごやかに幕を閉じた。啓明しの。

この顔は誰だかわかりますか
あとでそっと教えます……

上山田で37会

正月八日長野電鉄が鳴った。上田の柳沢（郎君から二東京と各同で三三会をやりたいが、そちらは決ったか」という問い合せである。東京三三会は二月下旬から三月上旬が、今迄の例になっていて、当方も十日には決定する心算でいたので、一応幹事にはかり、信州に合流することで東京を期することとした。

三月三日午後六時より、上山田温泉平曲館において開催。本年は統一地方選挙に当り、同志小林君も再び市議に立候補する予定なので、その激励をも兼ね実施されたものである。当日は地元及び東京ともちろん、特に名古屋からは遠く遠く遠路を踏まえ、中村君、小林君、飯塚君、中村（常光）、樫尾、柳沢、中村（常光）、樫尾、柳沢、中村（常光）、樫尾、柳沢

故・小川栄一先輩の思い出

松尾球友会々長（25）馬場長市

吾等の大先輩上中第十八回卒、小川栄一氏は昭和五十三年十二月八日肝臓病のため、満七十八才の天寿を全うされ昇天せられた。上田同窓生一同にとって誠に痛哭に堪えない次第である。

小川先輩の履歴については私からご紹介する迄もなく、余りにも有名であり、ここに記載する迄もないが、同氏が自ら執筆された、「私の履歴」によれば、明治三十二年十二月二十四日父小川七兵衛氏母道（みち）様の長男として、上田市に呱々の声を上げたのである。

小川家の祖先は三重県鈴鹿市のご出身であり、真言宗の大僧正として布教に当られ、明治維新氏の祖父「七兵衛」氏が僧籍を去り、上田に移り質屋として、八つの蔵をもつほどの繁盛振りであったという。僧籍を去った祖父七兵衛氏は初めて妻帯が許された由。祖母は上田市の薬剤士清沢儀兵衛氏の娘で、二人の間に生れたのが栄一氏の父七兵衛氏、母は群馬県の素封家、武井家から嫁がれた方である。このように栄一氏の体中には伊勢一代、信州一代、上州一代の血がはいっている。

このことは栄一氏の学生時代にも、又社会生活に於ても、まれに見る先見性と迫力に充ちた説得力万難を排しての行動力を発揮せられ、幾多の業績を残された人生行路に深い因縁があったと感ずる者である。

先輩の上田中学時代は丁度第一次世界大戦中で連合軍についた日本は戦争景気に恵まれた大正初期の好況期の野球熱の旺盛な時代であった。氏は私の兄三子男に続いて上中野球部のマネジャーとして活躍し、投手に大井源太夫を擁した母校野球部の全盛期を築いた。氏のマネジャー時代に初めて寄宿舎における合宿練習を行い、甲子園進出を期して信越大会に臨んだが、同大会の優勝校、長野師範に熱戦の末一点差を以って敗退し、ついに、甲子園進出の夢は消えたが、上中健児の意気を高めた功績は偉大であった。かの「千曲の流絶間なく」の応援歌第一号も、作者不明となっている「松尾城頭青嵐」の応援歌二号も小川先輩の作詞であるとの同氏の述懐によっても、氏がいかに野球に熱を入れ、上中野球部の黄金時代を築かれた功績を忘れてはならない。私の少年時代に小川先輩が私の家を訪れ、兄三子男に向って口角泡を飛ばして長師との対戦成績を報告しておった場面は少年時代の私の脳裏に深くきざまれている。

上中を卒業後選んだ進学は、上級生のない新設の水戸高校。氏は上級生につかえる事が嫌いで、自分が常に上位にあるために、新設高校を選んだと書いている。一回の試験でパスして水戸高校に入学されたが、全寮制の水戸高校に於ても寮長になり、寮生を統率し、また野球部を新設し、自ら投手をやったがうまく行かず再びマネジャーとして活躍し、三年の後には二高（仙台）との対抗試合に先づ野球部が初戦に於て勝ちを制し、全運動部の勝利をもたらすに至ったとの自慢話しは有名である。

私は昭和五十年四月十八日中村礼三君と共に藤田観光の本社を訪ね、当時会社々長であった先輩より直々若き学生時代の思い出話しを拝聴し、この人ならではと感銘を深くして同社を辞去した次第である。

氏は京都大学を卒業後安田信託銀行に入社。常に自説を通して思う存分な働きをなし、入社後十年後には営業部次長まで昇進したが思う所があって上司の反対を押し切って同行を退社、日曹、ラサ工業を経て関西の財閥藤田家の整理に当たる運命となり、ついに藤田興業一同和鉱業一藤田観光といった人生を送ることになる。次で同氏は藤田興業、同和興産の社長、同和鉱業副社長を経て、藤田観光の社長、国土総合開発、名古屋国際ホテル、長野バスターミナル、日本無人島㈱社長、京都国際ホテル、能登興業開発、東海汽船会長……等幾多の事業に関係されたが晩年は藤田観光㈱会長現職のまま他界されたのである。

思うに先輩の人生行路に於て箱根小涌園の開拓と椿山荘の造成事業は冒険な事業なだけに後世に残した最も偉大なる壮挙であり、貴重な業績を残されたものと思う。小川先輩の性格は明治維新の佐久間象山、実業家後藤慶太氏に勝るとも劣らぬ気性の持主ではなかろうか。氏は少年時代より人に使われる事なく常にリーダーシップをとり自己の信念を貫き通して周囲の関係者を説得されて成功された先見性ある傑物であったが、その要因は生れ乍らの恵まれた素質を遺憾なく発揮され、常に新しい運命を開拓されたご努力の跡を見逃してはならない。殊に若き日の野球生活を通しての管理統率力を発揮されたご体験は貴重なものがあったと感ずる事は我田引水であろうか。

小川大先輩のご冥福を祈って止まない。

信州の鎌倉について

（26）倉沢周平

「信州の鎌倉」の案内を仰せつかる機会がたびたびあり、現場でなぜ、いつ、と言うご質問をいただきます。

そこで、信州の鎌倉について諸先生方から承ったお話や著書などを調べましたので、御案内に先だって御一読していただければ幸です。

信州の鎌倉と申しますが南北約七K、東西約十二Kの中に、

国宝　安楽寺　八角三重塔（禅宗様）、

国宝　大法寺　三重塔（和様）、

のほか、中禅寺薬師堂、同薬師如来、前山寺三重塔、安楽寺開山及び二世の頂像、常楽寺の石造多宝塔、大法寺十一面観世音、同厨子、等を始めとする数多い重要文化財や、鎌倉、室町時代と推定される石造文化財などが密集していることから、この地のことを人呼んで「信州の鎌倉」と申します。

いったいなぜこんな小さな地域が信州では勿論のこと東日本に於ける有数の文化財密集地となったかと申しますと、いろいろな要素が考えられます。

信濃の国造（くにのみやつこ）が塩田平に居たであろうと推定されている。諏訪の大社よりも古い由緒をもつ生島足島神社がその所在地であったろうと言われ、塩田を含む上田市は古代信州の改治文化の中心であったからでしょう。それは古代大和朝廷の東国進出の基地として極めて重要な意義をもっていたからともいえます。

上古の頃都から東国に出る「東山道」（当時の一級国道）がこの地を通っていた。大宝二年、この道が開かれ（神坂峠を越えて信濃へ入ったこの道は伊那谷を北上して覚志―松本、錦織―錦部、浦野、亘、清水―小諸、長倉―軽井沢を経て東国に向う）、大法寺（大宝寺）は、その頃の開基といわれている。

信濃の国府や、信濃国分寺が上田に作られたのも東山道との関係が深い。

時代が移りやがて鎌倉時代を迎えようとする頃、木曽に生まれた義仲が丸子町の依田城で兵を挙げたのも、上小地方は源氏の色濃い地であったせいか。

鎌倉幕府ができるや、その翌年の文治二年に「信濃の地頭」として島津忠久と言う重臣を塩田に送り込んで来た。

即ち塩田は信濃でも一番早く幕府の掌握下に入ったことになります。つまり塩田は源頼朝が最もたよりにしていた地方でありました。

信州の鎌倉はこれから始まるのであります。そして、京都五山の上に位する天下第一南禅寺を開いた高僧無関普門と言う人が幼い頃塩田に住んだが学問を志す人達が教を受けようと各地より集まって来たので塩田のことを「信州の学海なり」と言われたものです。

安楽寺の開山樵谷惟仙（しょうこくいせん）と言う坊さんは宋に渡って修業して来たのですが鎌倉五山の第一とされている建長寺の開山蘭渓道隆（らんけいどうりゅう）と深い親交があり、また両寺は親類のような関係にあった。

安楽寺の外常楽寺、中禅寺、前山寺、高仙寺等の名刹もあって塩田は交通と政治そして文化と学問と信仰の地となった。

こうした処に蒙古襲来の時の立役者北条時宗の副総理格として努力した北条義政が職を離れてこの地塩田に移り住んだのであります（たいした人がきたものです）。

塩田北条氏はこの時に始まり三代六〇余年の間権力と金力を最大限に投入して「信州の鎌倉」は作られたのでありました。しかし本家の鎌倉が、新田義貞に攻られるや「いざ鎌倉」と一族をあげて救援に馳せ参じましたが、戦い利なく鎌倉東勝寺に於て一族門葉九百余名悲壮な最後をとげ、さしもの北条氏も滅亡しました。

塩田には地頭職が居りましたが最高権力者である信濃の守護職も塩田に居たことが判り、その居館は今の塩田城であるといわれています。

塩田は北条氏なきあと、村上氏（坂城）の領有となり二〇〇年を経て武田氏の攻略する処となりましたが、武田は塩田の地を重くみて重臣を配して北信濃への前進基地とした。

武田のあとは真田氏の領地として幾変遷をしも乍らも、幸いのことに「信州の鎌倉」は残りました。

塩田は雨量少なく、温泉に恵まれ、寒暖よろしく住みよいところです。

以上「信州の鎌倉」が作られた経緯を申し上げました。

生島足島神社、信濃国分寺につきましては伺れ稿を改めまして御案内申し上げたいと思って居ります。

幸田信真

井伊照子

同察会が終わると必ず上中の土手鳥さんたちは〝関八州の精鋭をここにくりしき英雄の心の跡は今もなほ松尾ヶ丘の花と咲く〟と歌われるが、井伊サイドから見ると何んとも複雑な感情が湧く。

関ヶ原へ遅参した秀忠に対して家康は文字通り烈火の如く怒った。関ヶ原へ数時間遅れたというならまだしも、四日目に草津で家康軍と合流したというのであるから第三者から見ても子供の使じゃあるまいしという気がするのである。

その怒り狂う家康をとりなすのに、本多忠勝、井伊直政は大変なものであった。雲行が怪しくなり一時は親子絶縁の危機まで生じたというのであるから、ひとつ間違えば切腹まで行ったであろう。本多忠勝、井伊直政は関ヶ原の我が戦功に換えてもとばかり平身低頭してようよう対面は許されたが、しばらくは釈然としなかったものがあったという。

上田で鬨の声をあげている時、徳川方はこんな状態であった。

関ヶ原合戦が終り、敗者の処遇が決定された。その中でも真田昌幸、幸村は、秀忠を懲り関ヶ原へ遅参せしめ家康親子の仲違にまで発展しそうな原因を作った張本人だけに、家康の憎しみは一通りではなかった。

しかるに死一等を減じて、高野山追放となったのである。それは誰が見ても分る通り幸村の兄真田信幸は、本多忠勝の女婿であった。

私はこの缶石を高く評価したい。信幸が単に東軍についたくらいでは、こんな温情措置はあり得ない。関ヶ原合戦の時点では本多忠勝、井伊直政は、家康にとって欠くべからざる人材であった。下って大阪の陣の頃には天海僧正、金地院崇伝、林羅山の錚々たる智将がいたが、関ヶ原の時点では徳川四天王なくして勝利はなかったと云えよう。

高野山の麓、九度山への追放は真田父子にとっては、まことに哀れであった。その時の話は真田の伝記ものなどでよく知られている。

関ヶ原より十五年経て、いよいよ大詰め大阪の陣を迎えるのである。

時代は変った。もう昌幸は今生の人でなく幸村だけが脱出し馳せ参じたのである。

しかし幸村の脳裡には勝つ見込みなどなかったであろう。道明寺の戦、真田の出丸……歴史に残るほど実によく戦った。が所詮、華々しい死花を咲かせるという結果にしかならなかった。

昌幸がふたりの息子たちを、東軍、西軍にふり分けた時の気持はどんなであったろう。どっちへころんでも、真田は生きのびられるなどとは考えなかったであろうか。

子供の頃〝真田の家の礎は千代ゆるぎなく定まりぬ〟という歌があった。

しかし明治維新まで続いたのは〝関八州の精鋭をここに挫きし英雄〟亡骨の遺孤を手に捧げ雲なす大軍うちはらい誠忠弧剣を提げて浪華の花と散りにける千古稀なる大傑士〟でもない、家康の殿胎の臣本多忠勝の女婿真田信幸があったからこそである。

（上田染谷ヶ丘高（34回卒・上田市出身）

住所変更者と現住所分明者

（16）清水新作―〒二五一―藤沢市藤沢二四九四―一二五（20）児玉四郎―〒二七一―松戸市稔台六〇七―八（32）柳沢泉―〒二三三―横浜市港南区上永谷町四一九九―二一（32）林重夫―〒二六一―新宿区中落合三―一五―三一二〇―一（33）児玉三男―〒一八〇―〇三―東久留米市永川台二―一八―一七―（35）瀧沢正―〒二七二―市川市妙新田二―二―一三（38）砂田正義―〒五六七―大阪府茨木市東大田一―一―二―九〇九（39）大塚唯男―〒二二五―川崎市多摩区細山五―六―一―（39）高橋順―〒一八三―府中市新町三―三三―一八（39）島田平三―〒三四三―越谷市瓦曽根一―四―三三（42）横山誠之助―〒一八五―国分寺市東元町一―三六―一五（42）関恵―〒一五六―世田谷区桜上水二―一七―九（43）小山公一郎―〒一五六〇―豊中市中桜塚五―八―三（43）飯島達男―〒五四五―大阪市阿部野区相生通り一―一三―一（43）市川信八郎―〒五九〇―堺市南田出町三―四―二三（44）丸山慶三―〒三五九―所沢市東狭山丘一―二九五〇―一四（44）甲田悌三―〒一四五―大田区上池台三―二〇―一六（44）武井国憲―〒一七三―板橋区板橋一―一―〇―四（44）小林重夫―〒一五二―目黒区東が丘一―三―三―一号棟三〇二（48）桐山博光―〒二三三―横浜市港南区芹が谷五―二―一五（48）古畑正明―〒一八九―東村山市恩田町二―二六―四（48）土屋慎一―〒九六三―郡山市片平町字新蛾塚二―一―高森官舎一六号（49）田丸勝彦―〒三三八―浦和市西堀一六―一四（50）西野明―〒一三三―江戸川区西葛西六―二三―三―三―二（50）飯島圭一―〒三四九―〇―一―蓮田市緑町一―一七―一二（50）小林宏―〒一九四―〇一―町田市金井町二―一三四―四八（50）竹花敏雄―〒一九〇―一二―武蔵村山市中藤一四六〇―都営村山団地一七九―四（50）塚田晴男―〒三二〇―水戸市笠原町一四〇五（51）半田興一郎―〒一七〇―豊島区巣鴨一―三―一天野ビル3A（51）青島昭久―〒二七二―市川市本北方一―三二―八（51）寺島国夫―〒一八〇―東久留米市滝山二―五―八―三〇一（51）土屋和幸―〒二五九―〇―一―神奈川県中郡二宮町富士見が丘二―九―三（51）中沢良行―〒三三九―岩槻市諏訪二―二―一三（52）橋爪今朝男―〒九八三―仙台市控木通六七（52）関恒夫―〒一八五―国分寺市西町四―一―けやき台団地四二―二〇二（53）菊地功―〒五六五―吹田市山田西一―三―B―七〇―一（53）高木快雄―〒一六四―中野区東中野四―二五―五―二〇三（54）足立恵一―〒一一四―北区田端一―二八―二一―二〇一（54）浅沼武夫―〒一八〇―〇三―東久留米市立大門中学校内（54）神津省吾―〒三五〇―一三―狭山市狭山台一―一六―一二（54）松井平三―〒三五〇―一三―狭山市狭山台一―二六―一〇（56）武舎忠一―〒一九四―〇一―町田市鶴川五―四―一〇―二〇五（57）田中宏典―〒三三六―浦和市中尾字木動谷一〇七―二―アサコーポ一〇一（57）馬場健一―〒二三六―横浜市金沢区六浦三―三二―六（57）小島吉男―〒三五〇―〇三―埼玉県比企郡鳩山村鳩山ニュータウン九八―八（57）宮坂幸雄―〒三四三―越谷市下間久里八九五―一（57）山崎維典―〒一六七―中野区大和町二―四一―四（57）山崎（神林）雅子―〒一六七―中野区大和町二―四一―四（58）遠藤二朗―〒三五九―所沢市中沼一七九（58）半田智夫―〒三五四―富士見市関沢三―四六―一〇（58）峰村敬一―〒三三〇―大宮市堀崎町一一三九―八（58）仲岡義―〒一五八―世田谷区上用賀一―八―一二―東電用賀寮一二二（59）石塚洋一―〒一四六―大田区多摩川二―五―一―ディックピア多摩川七〇二号（59）江島森之―〒三五九―所沢市下安松八七六（59）常盛秀夫―〒三三八―浦和市西堀八六〇―一―五（59）橋詰五十夫―〒二三二―横浜市中区翁町一―三―一―日本ビクター神奈川総括営業所（59）高野寛之―〒二七〇―一―我孫子市中峠字亀田谷一六四二―一〇（59）荒井長利―〒三一九―二―一―茨城県那珂郡東海村村松原―研長堀住宅F一三―六（60）羽毛田信―〒一一三―文京区湯島三―一六―二―松風方（60）関一嘉―〒二二〇―横浜市西区戸部町四―一二―（61）塚田修―〒一八九―東大和市清水一四五三―一―（61）羽毛田仗一―〒二二六―横浜市緑区白山町一四三二―五（61）宮島英紀―〒一八三―府中市西原町二―一―一八（62）渡辺幸治―〒二七二〇―千葉県東葛飾郡浦安町今川五―一二四〇―今川団地一六―一（62）片山　隆行―〒二三三―横浜市港南区野庭町六一九―野庭団地二一二八四（63）大塚和弘―〒一七六―練馬区北町八―三四―一〇（72）奥村明―〒二二五―川崎市多摩区王禅寺二五八六―王禅寺ハイツ一―一（76）若林里恵―〒一五二―目黒区中央町二―一三―一一　以上六八名

上信越高原国立公園／国民保養温泉
新鹿沢温泉
鹿澤館
群馬県吾妻郡嬬恋村新鹿澤温泉　TEL 02799―8―0908

セブンイレブン　上田駅前店
上田市中央1丁目1番22号
合名会社　桝林本店
鵜澤英太郎（47期）
TEL 0268（22）0117　0268（22）0203

調査・測量・配管設計・複写関係
東京技工株式会社
代表取締役　花村義男（47期）
本社　東京都港区浜松町1―26―6
電話　03―433―2654

中学出てから30年

(47) 牧内　操

われわれ四七期は、昭和二十三年三月卒業、長野県上田中学校の最後の卒業生であり、長野県上田高等学校の最初の生徒である。

昭和十八年、上中に入学した頃先輩から教えてもらったいくつかの歌の中に〝中学出てから三十年、今じゃ、幾章のルンペンで、夏の日射しのさす頃にゃ、はい出す〟〝しらみ〟が五万匹！…というのがあった。今じゃ…「ハイヤーの先生」だったり「満州の大馬賊」あるいは「関西の財閥」だったりして、必らず最後が「五万人」とか「五万円」とかがついて「五万節」というんだそうだ。

中学に入りたての頃、この歌を歌いながら、通か、三十年後の俺は〝しらみ〟なんかじゃねえぞ！と力んでいたもんだ。

ところが、いつの間にか三十年が経ってしまった。

その昔の、悪童、善童も共に老いて、歌のとおり、それぞれ今じゃ○○○……と納るところへ納っている。

昔から「卒業三十年」を記念して、該当する期の有志が母校へ記念品を贈ることが慣例となっているそうである。

そして「会報・うえだ」広告部長、伊藤東四次郎先輩（三十六期）から声がかかり、「おいだれ四十七期の諸君で、卒業三十年記念として会報二十一号の広告を全部受持ってくれや！」

正に「年男」的扱いである。

有難いような、迷惑なような――然し、これも浮世の義理とあきらめて、広告については、同期の小山邦朋・井出周利・関本秀治君達の力を借りて、あち、こちの自営業諸氏に連絡し、どうやらその責を果した次第である。

母校への記念品の方は、地元の小林茂君が実行委員長となってやるらしい。とに角、御苦労なことである。

NHKテレビでいつもニュースを担当している西沢祥平君は、わが同期である。ひいき目でいうのではないけれど、数あるアナウンサー諸氏の中でも、抜群のアナウンサーだと思う。

その証拠に、誰に話しても「アー、アノヒト……知ってるよ。」と皆んなが知っているのをみても確かである。然し、その次に「エッ、あんたと同級生？　ヘエーおどろいたナ！」と感心される。

この間、同期会をやったとき、彼は同期のみんなに、とても感謝されていた。

さて、われわれ47期が、上田中学への入学したのは昭和十八年四月。まさに軍国主義最高潮のときである。

戦闘帽に背のうを背負い、巻脚絆（ゲートルといってはいけない）で登校した。校門のところに上級生が週番士官よろしく立っていてわれわれ下級生は、その前で「歩調とれ！敬礼！」とやったものである。冬でもズボンのポケットは厳禁、必らず縫合していなければ大目玉を喰った。軍事教官の赤鬼中尉殿や丑（うし）中尉殿は、それこそ鬼より恐い存在だった。

三年生になりたての頃、四年、五年の上級生がみんな学徒動員で出払ってしまい、最上級生となったときがあった。このときばかり今まで、やられっぱなしの「お説教」を、俺達もやってみるでねえか、ということになった。（私は当時、松尾尚志会一部会・常田・大宮付付近）。早速、ある晩「大宮さん」の社務所へ下級生達（二年、一年）を集めて、生れて始めての「お説教」をやってみた。誠に良き気分であった。社務所の中で、電気を消して、ろーそくの灯りの中で、下級生にハッパをかける。つい先日まで、やられる方に坐ってばかりいたのが今日は始めてやる方の側に立って、胸張って肩いからしやたらと野太い声を出し「わんだれえ！ちかごろおーひったるんどるぞおー！」などと怒鳴る。全く天にも登る良か気分であった。ところが不慣れというものは恐しいもんで、仲間のAの奴が、無理に気張った声を張り上げた途端、プッーと廉な音を出しやがった。

お陰ですっかり気勢が削がれてしまい、そこそこに切り上げざるを得なくなってしまった。

それから間もなく、すぐ上の四年生が帰って来、二年生の奴が告げ口したらしく、早速われわれ三年生は、欲求不満の四年生にこっぴどく痛めつけられる始末となった。

あとにも先にも、ただ一回だけの「お説教をやった経験」に、あの強烈な「おなら」の音と共に、今、思い出しても腹の底から笑いがこみ上げてくる。

大東亜戦争は私達の三年生の夏に終った。

終戦時の混乱と頽廃は、われわれの学園にも容赦なく押し寄せて来た。――進駐軍の捨てた、「モク」を拾って吸ってみたり、小遣銭稼ぎに「かつぎ屋」をやったり復活した学芸祭の舞台の上で、酒を飲んで見せて停学を喰ったり、やがて校舎が放火により炎上したり……いろいろなことがあった。

神風特攻隊帰りの上級生が、われわれを雨天体操場に集め海軍魂をたたき込んでやる！とかで集団説教？したとき、そこへ通りかかった「のっそり」（久保田先生・島木赤彦の息）が、「バカヤロー もう戦争は終ったんだ！」と怒鳴って、その特攻帰りにビンタを張った勇しい姿は、今、思い出しても素晴らしいなあ！と思う。どの先生も「さわらぬ神ー」とばかり見て見ぬふりをしている中で、敢然と体を張って、特攻帰りに立ち向った久保田先生の勇気に心から敬意を捧げるものである。今、いかがされているか、御健勝と御多幸をお祈り申し上げる。

四年生・五年生を戦後の混沌とした中で過ごし、旧制中学最後の卒業生として、また、すぐ新設された新制高校の最初の入学生となったわれわれ四十七期生は、終戦までは、ほとんど勤労動員、軍事教練に明け暮れし、在学中、落着いた勉学らしい勉学も出来ぬままに卒業してしまった。お陰で、世が世ならば、大学教授か、大蔵次官位になれたかもしれない私の素質も遂に磨かれぬままに、もはや三十年有余の歳月が経ってしまった。

然し、正直にいうと、われわれ47期には、いつ勉強したんだが、錚々たる大学教授が、私の知っている限りで六人もいるし、また他にも二人位いるらしい。即ち、金子宏（東京大学・税法学）沢木敬郎（立教大学・国際法）渋沢孝輔（明治大学・仏文学）安川克己（神戸大学・理学部）窪田富雄（東京外語大学）高見英一（法政大学）の諸氏、高校（12）中学（7）小学校（6）の先生が25人もいるし、弁護士は、城下利雄・北沢和範、公認会計士は三浦嘉治山田照の諸氏。……戦後、陸軍幼年学校から復学して、すぐ「天皇制打倒論」を激しくぶち上げた秀才の関本秀治君（旧姓・桜井）はいま反体制の税理士として、日本税理士会連合会で知らぬ者はいない大活躍をしている。47期卒業生代表の小林茂君は地元（上田）で立派な脳外科病院をやっているし同期の優秀な医師は六人もいる。ノッポの加藤文郎君（旧姓・猪坂）は全国中小企業団体中央会の調査部長として全国を飛び回っており、二年のとき、一緒に机を並べていた木島清次君は、警察庁科学警察研究所の室長で、ある有名な難事件解決の際、「時の人」として新聞報道された。

異色なところでは児童文学作家として数多くの著作を出している大川悦生君。……まだまだ秀才諸氏はいるが紙面の都合でこの辺にしておく。前述の人達は、知識、学問の分野で努力されている人達であるが、自営業或は経済界で活躍し、重きを成している同期生も多い。今回、本紙広告面に登場する諸氏もその中の人々である。

ともあれ、〝人生は〟これ、一場の夢〟中学出てから三十年、今じゃ○○○と納りかえっている。昔の善童、悪童達が、年に一回、池袋の八峰閣に集って、楽しく歓談するとき、そこには秀才も鈍才もなく、有るものはすべてこれ、同じ世代に生きる強い連帯感のみである。

「われ！　今、何してるだ？　ウン○○○？　まあ、いいから一杯やれや！」

ことばは生きている

(36) 神野　勝男

二、三年前のことであるが、後輩の平田君と、なんの話しをしていたか忘れたが、「先輩、せせくらないで下さいよ……」。と言われ、全く忘れかけていた故里のことばを耳にして懐しく大笑いをしたことがある。

「せせくる」とは、なんだろう語源は？　古語なのか、全くの方言なのか、国語学者でないので、早速古語辞典で調べてみると、古語に立派にある。迫る近づく、という意味といちゃつくという意味がある。広辞苑の第二版補訂版を調べると、ここにもあった。①つつきいじる。②もてあそぶ、いちゃつく。浄瑠璃の艶狩り（もみじがり）に「せせくり寄りて問いかくる」とあり、同じく忠臣蔵には「勘平めと、せせくっているところを……」とある。と説明されている。

話は変わるが矢島支部長は「おい、ちょっと待っていろ。小便まってくるから……」。という。この「まる」も古語で「丸」のまるではない。ま・るである。神代記に「屎（くそ）まり散らしき」とある、と古語辞典にある。この間百回記念祝寿を開催した「わんだれ」会の「わんだれ」も懐しい身近な信州弁である。

地方統一選挙が終って、一日なにもやる気にならないので、日向ぼっこしながらねそべっていたらてんぐけ思い出したのが故里のことであった。東京に出たばかりの頃は、田舎弁が出るとしょうしくって困ったのに四十年の歳月が過ぎると、そのしょうしかった信州弁が懐しくなる。年令のせいかも知れないが、故里の心はやっぱり、ことばと山河である。はあるか使わなかった信州のことばが突然耳に入ってくると、瞬時にして信州人になってしまう。幼い頃さんざ食べたものや、したたま怒られたことが思い出される。

ことばは生きている、生きているからには死んでいくことばもある。しかし古い信州のことばは、残しておきたいものである。いつまでも生かしておきたいものである。

立ち喰いソバか カフェーか

(30) 山岸　一一

高校生がクラブ活動の帰途、立ち喰いソバを食べて見付かり、停学退学の処分をうけたことが、新聞に出て論議をよんでいる。学校当局の言い分によると、校則違反であり、美的感覚にも反するということである。今どきこんな学校もあるのかと驚いたが、私にも中学時代にこんな思い出がある。

昭和も初期、田舎の中学では、映画をみることも、父兄の同伴なくしては食堂に入ることも一切禁止されていた。当時中学には軍事教練があり、年に一回は野外教練として、学校外に出て二泊三日、近郊の小学校に宿営し、軍隊演習の真似事をやっていた。最後の日は払暁に起床、稲の刈入れのすんだ田圃の広がった高地で、両軍に分かれて遭遇戦―白兵戦を展開、演習を終了し、学校に帰って校長や配属将校の講評をきいて解散した。

学生は空砲をうった銃の手入れが終ってからの下校で、とうに昼食時間は過ぎてしまっている。私は遠い郊外からの電車通学で、電車の出るまでの時間も長く、疲労と空腹でへばってしまった。通りすがりの級友に食べるところがあると案内されたのが、横丁の場末のカフェーであった。級友と周囲を見廻して、人影のいないすきをみて店内にとびこんだ。

二階から、みだれ髪の和服姿の女給がおりてきた。支那ソバ（ラーメン）を注文し、漸く腹の虫もおさまった。空腹にしみわたるラーメンのうまさは、未だに忘れられない。店を出るときは、女給は心得たもので、裏口から出て人のいないのを合図してくれ、表に出た。もし見付かっていたら、昼間から女のいるカフェーに出入したかとで校則違反として退学させられ、医者などにはなれなかったろう。

しかし、これが私とカフェーとの馴れ初めとなった。芳紀まさに十七歳。こんな理不尽な校則をつくって学生を困らせた教師も、卒業後何年もすると同窓会やクラス会に招待され、恩師としてあがめられ、先生さまさまである。教師冥利につきるというもの。学校の先生となんとかは、三日やったらやめられぬというわけ。ありがたいことである。

会報第二十号の戻り

(29) 生島貫二（35）竹下栄昌（40）阿形宗宏（43）若林大、手塚慶次郎、金岡隆夫（44）宮下忠二、油井義隆、土屋典雄（46）長谷川潔（47）橋詰礼三、柳沢昌、山崎繁広、吉池賢郎、関強（48）児玉和男（49）坂田信雄、清水茂雄、橋詰直人、赤羽弘好（50）生島満（51）青島昭久、大久保満夫（52）美谷島晋、福島弘、田中芳夫、小島芳次（53）高野政晴、山極省平（54）田村朗、柳沢修、佐藤信二郎、小山明夫（55）丸山正義、稲葉正人、佐藤上、中村博治、柳沢郁政、樫野達彦、中山純一、吉田春雄（56）宮坂卓、吉池鴻允（57）今井聖、武井義親、横沢武久（58）池田隆夫、遠藤辰男、武田守央（59）柳沢実、羽田幸昌、渡辺雄二、千野裕明、清水英紀、香山博、小林賢一、水沢清（60）沓掛行徳、北川博子（61）清水英彦、小平隆基（62）増田憲樹、大塚英俊（63）青木泰信、宮島正紀（64）奥山政久（67）中原純夫（以上六七名）

『わんだれ会』遂に第百回を記録！！

去る四月四日に「わんだれ会」の第百回記念の会が池袋の八峰閣で盛大に挙行された。過ぎ去って了えば早いもので昭和四十五年の秋、第一回のわんだれ会が開かれてから八年余りの歳月が流れた。

年に一回とか二回開かれるという会ならば十年以上続いているのも決して稀有ではない。然し毎月一回開くという会が一度も休まずに百回続くという事は、そうざらには有るまいと自負しても良いのではないかと思う。(35) 石倉、(54) 小沼、(54) 馬場、(57) 岡村の四名が幹事役を仰せつかり、当日の受付とか司会、会計等の雑務を引受けることになった。さて会をオープンして見ると六十余名の大勢が参加した。その内訳は上田高校関係とその知人で四十名弱、矢島先生の教え子や教え孫で十名余り、それに染谷のおんなしょ」が七名程、そして矢島鋳工社の社員の方々という構成である。

この会の誕生の経過は既に会報第十六号に発表されているので重複は避けるが（35）花崎、（36）神野の両氏が生みの親として挨拶を述べ、またこの会の中心的な存在である（31）矢島先輩の一席の後、（29）岩下元校長先生の乾杯で会は始まった。そしてこれまでいつの会にも献身的に奉仕して下さる矢島鋳工の社員、特に女性社員の方々に対し拳り万雷の拍手を以て謝意を表した。然しこれでは正確な記述ではない。感謝の対象となる人物はもう一人、それは（32）中村礼三先輩である。毎回の会食膳を賑わす料理には中村さんの手になるものが最近はずーっと定着しているからである。宴酣になるとマイクの前で喉自慢が始まった。最後は全員ホール一杯に輪になり、神野学園々長の神野先生のリードで童謡の「夕日」の遊戯で和気あいあいの裡に閉会した。(35) 石倉謙一記

株式会社 栗木組
代表取締役 栗木　秀和（47期）
〒386―04 長野県小県郡丸子町中丸子1742番地
電話 丸子（02684）2局2816番（代表）

信州へおいでの折にはぜひお立寄りください
郊外レストラン 信州ガーデン
（18号線沿い）
株式会社 信州ガーデン
代表取締役 坂下　和三（47期）
長野県小県郡東部町加沢1417番地
電話 東部町（02686）2局1661番（代）

TKC　コンピュータシステム
牧内会計事務所
(株)川口計算センター
所長・代表取締役 牧内　操（47期）
〒332 埼玉県川口市青木2―2―7 川口ビジネスセンタービル
【電話】川口（0482）51―3414（代表）

事務局日誌

前第二十号の日誌は、昨年十一月十三日で終っている。本号にはそれ以降を綴り御報告としたい。

昭和五十三年十一月十七日

長野県内の傍友校である松商学園創立八十周年を祝しての、京浜地区同窓大会に招待を受け、本会を代表して矢島支部長出席、外多くの各傍友校各代表者と共に、松商学園の益々の御発展を祈念申し上げる。盛会であり伝統の尊さと重厚さに感激も一入であった。

十一月十七日、十八日

会報第二十号の校正に編集委員朝より参集、黙々として赤ペンの校正につくす、労や大、深謝仕る。

十一月二十八日（火）

豊島区池袋の八峰閣にて幹事会開催、出来上ったばかりの会報第二十号の記念号を一同に手交、種々協議につくし、編集委員一同へ拍手で感謝、年会費の徴集方策など議し、二月に次回幹事会兼新年宴会を計画し盛会のうちに終る。

十二月十二日（火）

東信地区同窓会東京連合会開催され、本会より矢島支部長始め役員出席　親睦交歓につくす。

十二月十四日（木）

本会員であられた（18）小川栄一先輩の葬儀告別式に臨む、多彩にわたった大先輩の人生の歩みを偲び霊前に額き感無量、御冥福を祈る。弔文は（25）馬場長市先輩の記述をごらん下されたい。

昭和五十四年二月八日（月）

年新らたまり、恒例の幹事会兼新年宴会を八峰閣にて開催、出席各期代表幹事七十有余名、支部長より本会の諸計画案を含めての挨拶、母校より同窓生係りであられる（44）柳沢宏先生御出席、校舎改築模様など御説明下さる、次いで来る六月二十八日開催の第十八回関東支部大会兼新卒業生歓迎会の大会委員長に（40）小林副支部長を推す、第二部は新年宴会となり、楽しく幹事相互の親睦交歓に移り、有意深き幹事会であった。

二月二十七日（土）

乃木坂にある健保会館にて、東信地区同窓連新年会開催され、本会より矢島支部役員出席、来る五月中旬に本連合会と郷土の母校同窓会関係者との親睦交歓会計画が議され、会場は小諸市に於て開催の件も決る。他校委員御一同の労も大きく多謝。

三月十六日（金）

会報第二十一号発行について、第一回編集会議を事務局にひらく委員十名出席、大要を議す。またせわしい準備となる。原稿及び広告募集を議す。

四月十三日（金）

虎ノ門、東京農林年金会館にて幹事会開催、出席幹事五十六名、第十八回の関東支部大会及び会報第二十一号発行について詳細な打合せ、協議をなす。母校より新同窓生係りとなられた（44）北村辰雄先生の進学状況や母校八十周年記念事業計画等について御報告があった、出席全幹事の恒例自己紹介もあって盛会に終了。

四月二十四日（火）

去る二十日速達便にて、同窓会本部の（27）柳沢文秋理事長よりこの二十四日、上田市にて本部同窓会の各期代表幹事会開催のため、関東支部長及副支部長各位、出席下されたしとの当日は長野県高校同窓会連合会の理事会も既に開催予定とあり、止むなく上田へは矢島と、幹事長柳沢広氏にて向い、高校同窓連には花岡副支部長に出席を願う。

本部上田の幹事会場へは時間ギリギリに到着、直ちに出席、六月三日の本部同窓会開催の件及び明年の母校八十周年記念事業計画について承る。去る十三日のこちら支部幹事会の様子も伝え、

一、関東支部の名称改案の件
二、八十周年記念事業への協力方法と母校及本部との今後の連絡方策
三、関東支部において、東京都内に新事務局設置懸案の件

右三項の外に諸活動内容を報告し、ふるさと在住各期代表幹事諸氏と懇談親睦をつくして上京す。

この日、都内の健保会館にて長野県高校同窓連ひらかれ、本会支部の代理で出席していただいた花岡副支部長の報告によれば、来る六月三十日に同窓連合会総会を開催と決定、各校代表五名、親睦を計る由、外組織、渉外、規約、財務等について議され由なり、東北十四校、北信六校、南信四校中信三校　計二十七校出席の由。

五月二日（水）

事務局にて第二回目編集会議をひらく、折りからこの日、月例第百四回目の王陀礼会と重り、原稿収集にも二十余名の集合にて思わぬ資料も獲得せり首して第二十一号の編集に相討る姿や尊し。

五月十一日（金）

本会事務局にて最終編集会議ひらく、但し各員担当委員参集、小林大会準備委員長、柳沢幹事長も馳せ来り、第二十一号の編集に助力つくす

本月中には上り、と全員努力一心なり

以上をもって報告記とする

（事務局　矢島記）

おくやみ

同窓生の先輩、同期生、そして、後輩諸氏の訃報、次々と事務局に報告あり、人生の悲哀、その都度強く覚えて悲し、天なり命なりと自らに説きつつ、ひたすらにその瞑福を祈るのみ、併せて御遺族様には心よりおくやみ申し上げる次第です。

●（16）矢島　恭介
昭和五十三年十一月十一日

●（19）今井　斌
昭和五十四年四月二十日
（21）島田次郎相談役より電話報告

●（21）関　光雄
昭和五十四年四月二十六日
（21）島田次郎相談役より電話報告

●（22）柴弘人
昭和五十四年二月
（23）大森相談役より電話報告

●（23）小島源五
昭和五十四年二月二十七日
（23）大森相談役より電話報告

●（28）滝沢英栄
昭和五十四年四月十四日
本部同窓会事務所より文書報告

●（31）田中平八郎
昭和五十三年八月
（31）小山豊氏より報告

●（31）二村新太郎
昭和五十四年一月十五日
御遺族様より文書報告

●（34）牛山信一郎
昭和五十四年二月十三日
御遺族様より電話報告

●（37）柴田博
昭和五十三年十月十五日
御遺族様より文書報告

●（49）上野高明
昭和五十三年八月二十二日
御遺族様より文書及電話報告

――合掌――

年会費納入者一覧表

（S53・11・1～54・4・30現在）

18期　森義雄

21期　小池泰岳・滝沢勝人・松平忠久・大日向孝二・西沢慶二郎・若林泰三・所与曽平・長谷川長兵衛・芦田中・近藤貞

22期　柴崎菊雄・本間茂

23期　渡辺武彦・小山正雄・島田昌一・別府滋樹・木村未武

24期　太田道雄・小林健道・中曽根勝雄・滝沢中・茂木清文・石井操

25期　山岸仪・宮入博・後藤政一・高島兵軍・児玉晃・横山六郎・柳田昌一

26期　小泉寿・小山正徳・高野貢・田口喜一郎・後藤富平

27期　柳沢時介・小林忠人・児玉徳行・滝沢昇・田中利男・桜井幸次・和田敦・山辺三男

28期　田中五郎・岡田重一・滝沢幸司・小宮山幸一郎

29期　橋詰一郎・大川善一・別所洋順・山岸次郎・豈下美千穂・武藤炬靖・大塚毅宏・白井武敏

30期　石塚一重・成沢省三・熊谷進司・佐藤茂・平塚寧・斎藤清関啓一・塩沢丑太郎・松井巻之助・柳田茂雄

31期　宮坂三吾・赤沼直人・佐藤聖・小宮山庄三・金井鉱一郎・荒井功

32期　林重夫・土屋勉・石井満明・清水信・水科正・笹川徹・吉田正・荻野左中・堀謙治・平尾陸郎・渡辺綱男・池島雄三・岩田光弘・丸山茂登・荻野石中・塩入春雄・千野徳治・市原政治・宮川善一・田中柳一・柳沢泉

33期　朝日涯

34期　島川吉兵衛・清水豊人・鷹野富士雄・小林重昌・清水好夫・神田精夫・松井正直・高見沢正・山浦直人・山寺利治・土屋信夫・桜井直人・砂田昌寿・

35期　堀内啓爾・出浦甚一・神津勝時・石井暢・小宮山隆三・久保田允・滝沢正・笹輪孝尚・塩入重雄

36期　深井安児夫・瀧秀・滝沢克巳・武捨久男・田中良夫・伊藤東四次郎・山本五助・尾崎毅・高遠弥六・村山一郎・小松義衛

37期　岩田茂樹・新井邦夫・原田安雄・堀内敏夫・八田秀・林孫一郎・内田重喜・坂本史郎・横田勉弘

38期　阿曽英二・滝沢進・中井虎史・池上貞雄・田中康雄・若林士郎・滝沢得一郎・牛木睦富・清水則夫・戸谷禧良・荒木広之・小林三郎・本山暁夫・三井康郎・矢島仁

39期　永田幹夫・大塚唯男・西沢和臣・阿部博・野崎安意・志津田瑞穂・荻原敏次・高橋順・牧内正志・浜住義一・横関嘉伸・菊地博

40期　清水恭平・上野豊重・丸山英一・石木林・矢島信一・井上忠雄・柳沢宮三郎・田玉清次・佐藤富一夫、渡辺久雄・武重三郎・吉池一郎・塩沢正人・片山敏・沙田辰雄

41期　生島信夫・古松彰・正村吉徳・古谷達孝・横沢俊雄・小田切昌三、松崎五郎・長井英一・竹内義人・田口義孝

42期　大滝善夫・小林孝雄・横山誠之助・高橋祇市・青山幸夫・宮坂民樹・小山成安・佐藤成男・飯島叔男・横山十四男・宮本武・増田宮太郎・今井光男・小鴨謙四郎・佐藤次郎・村山篤

43期　飯島久生・武重千冬・上野敏雄・松尾昌吉・平林直・佐々木三夫・徳武重信・小林拓也・大日方仁・小林朝衛・中沢信・保刈大治・成沢正一郎・川島勝義・清水幸衛・梅田実・両沢卓蔵

44期　武井国憲・生島和幸・柳沢広・市川渡・佐藤藤雄・児玉志郎・城戸道夫・岡野森太郎・荻原隆・石井克巳・児玉文夫・児玉喜年・宮後内都・小林重夫・手塚栄三郎・松山史郎・柳沢啓一・清水茂行・中島和夫・中村強・柳沢清史・工藤周介・花岡義信・田中一夫・坂田義明、関実・南沢次雄・篠原保

45期　掛川暉夫

46期　三井周・筑土秀玄・神林常視・有賀治・田中宏幸・横田亮一・宮沢寿・足立隆・金子寿夫・工藤忠房・北上博・水井純・寺西卓郎

47期　沓掛元砥・渡辺整・花村義男・上野平八郎・沢木敬郎・清水豊・三井芳郎・清宮栄市・三浦嘉治・滝沢七郎・若林広一・山岸五郎・小宮山邦茂・高見英一・高見沢文夫・余地毅・土屋博・丸山栄一・大川悦主・木下喜久雄

48期　高柳直樹・桐山博光・小林資治・浦田光雄・今井正明・小山巌・寺沢明・牧内清・中沢利雄・松本守弘・岩井昭広・柿崎真吾・春原寛・竜野雄・和泉吉郎・大平暁・大角栄一・唐沢俊雄・宮坂啓象・宮沢武夫・井出洋一郎・横田正一・滝沢英一

49期　新井通夫・西野勲・山崎泰衛・大石和夫・出野勝己・小林嘉六・中沢重夫・関礼次郎・沢田達三・松本初男・滝沢朗・川本豊滝沢茂夫・滝沢栄・原行明・中山典之・山岸万亀男・白井道也・鶴見慎一郎・井出昭・北沢昌永・佐藤芳徳・成沢芳男・関根伸一・桜井寛幸・滝沢侑三・竹重信幸

50期　原田俊一・小山洋之助・花岡巌・塚田満・竹内啓爾・山浦弘夫・渡辺洋一・木内宏一・柳沢洋一・宮入明雄・小須田紀元・山辺文雄・宮原省三・飯島圭一・前田一人・久保田襄・桜井丈夫・小山邦介・小林亮三・月岡芳則・笠原甚平・竹花敏雄・沖島伸夫・押鐘平八郎・新美毅・小林宏・成沢道男

51期　池田義雄・中島宏・飯島英美・佐藤隆雄・早川正範・有川至・上原英一・上原昂・上原泰幸石川泉・鵜田裕・山岸徐生・堀内弘栄・龍野勇介・若林薫・田村忠男・久保田豁・金沢徳一・堀内照雄・関礼二・竹内克好・寺島国夫山本曇久・浅野井哲・太田幸男・春原寛・竜野雄・和泉吉郎・大平暁・大角栄一・唐沢俊雄・宮坂啓象・宮沢武夫・井出洋一郎・横田正一・滝沢英一

52期　掛川十次郎・竹内盛夫・小林孝典・橋爪今朝男・小林盛男高松健治・生駒利行・三浦健一・矢部信・大塚吉彦・河野政人・松沢秀雄・伊藤裕幸・岡正利・森浩一・青木功・川村努

53期　清水聖・高木快雄・山辺一磨・宮崎祐輔・坂口茂広・土屋正行・村山憲太・宮入達雄・柳沢浩二・清水義正・北村礼子・保屋野悦男・潤賀康成・小山哲・下崎和彦

54期　磯正泰・小市則夫・宮下桂二・馬場武彦・宮入裕夫・橋田ちせ・後藤人三・清水博夫・成田崇宏・小松邦男・土屋悟・滝沢義信・宮崎武男・深町勝男・市河富弘・和歌月弘久・小川広・石井光春・石原澄江

55期　木村和幸・関五郎・荻原光夫・波田野彰・土屋隆一・宮入健二郎・塚田忠夫・滝沢譲・滝島邦一・萩原勝海・片岡恒夫・飯島信夫・瀬下正利・坂田治三郎・池田宏亘・長崎哲夫・中川武人・浜村浩史・鷹野功

56期　谷島征行・大日向昂・沢尾明夫・平野武明・神津進

57期　浅川征男・有井毅・高木佳年・野田勇弘・平林寛・宇賀神一雄・碓井栄一・竹内昭・長坂進・内田重喜・坂本史郎・横田勉弘・丸山茂登・荻野石中・塩入春雄・千野徳治・市原政治・宮川善一・田中柳一・柳沢泉

58期　小山捷二・滝沢一彦・北野啓司・小山太郎・林洋三・宮本忠昭・堀芳恵・高橋福幸・篠崎名里子・三井恵雄・井沢敬・斉藤宣彦・深町稔・品川勇一・波田野浩田中健一・佐藤鉄也・宮下秀久・片岡春雄・小林計次・金子親硯

59期　小宮山嘉彦・滝沢武則・石塚洋一・稲葉茂・町田克二・小出清二・小林憲昭・小山一夫・宮島猛男・饗食賢司・田中英昭・武重昭蔵・小山法幸・重原正治・尾和剛一・春原利計

60期　臼田久米雄・今井勇雄・滝沢武男・大林佳輝・羽毛田信。戸島学・工藤正太・伊藤勝文・上原淳子

61期　高橋至誠・関勝男・高山時彦・小山満・堀内寿美・中村久美子・佐藤守正・久保和比古

62期　飯塚知也・岩井重一・宮崎信二・羽田啓吾・片山隆行・渡辺幸治・栢森芳子・片山登喜男・栗山正雄

63期　中山和彦・瀬花光本

64期　岡本秀生・有賀猛

65期　倉沢斉

66期　古畑克己

EIES
荏原インフィルコ・エンジニアリング
サービス株式会社

環境衛生施設、公害防止装置およびこれら施設の…維持管理／巡回点検／設計・施工／関連機器の販売／その他附随業務

本　社　〒108 東京都港区芝5―34―2号
事務所　仙台・東京・名古屋・大阪・広島
☎ 03―455―7111（代）

代表取締役　丸山栄一（47期）

郷土と結んだ輸出入

長野県貿易協同組合

専務理事　柳沢　暢宏（47期）

長野県上田市大字国分1751　電　0268―22―6318
連合会　日本貿易協同組合連合会　電　03―341―5181

有限会社　三和開発
三和総業株式会社

代表取締役　市川　直進（47期）

長野県佐久市大字中込2979―1
電話番号　佐久（02676）2―1750

サン虎ノ門クリニックが電話によるガンの無料相談

毎日PM5～6・30

ガンをなくす最大のキメ手は早期発見と早期治療だが、一般にはなかなか検診を受けようとしない。多忙と「万一発病していたら……」という恐怖にかまけて、1日のばしにしているのが現実だ。

そこで、池袋の「サンシャイン60」7Fにある「サン虎ノ門クリニック」（山口佳晴医師）では、診療時間外に、電話による無料ガン相談を開設。毎日PM5～6・30の90分間、ガンについての相談なら何でも応じ、適切な指示を与えている。

山口博士は無痛の胃内視鏡技術の第一人者。これまでに、数々の初期ガンを発見して、悲劇を未然に防いでいる。

「電話相談によって1人でも多くの方にガンに関する医学的常識を知っていただき、ガンの早期発見に資したい」というのが電話無料相談の趣旨。

【電話番号】03・988・3421サン虎ノ門クリニック

東京都豊島区東池袋三丁目一番一号
サンシャイン60・7階
サン虎の門クリニック
院長　山口　佳晴
久保　田勇（39期）